

第37回日本臨床検査医学会 関東・甲信越支部総会 プログラム・抄録集

会 期：2025年11月15日(土)

会 場：東京科学大学 湯島キャンパス

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45

総会長 大 川 龍之介

東京科学大学 大学院医歯学総合研究科
臨床分析・分子生物学分野

フェリチンキット

FERーラテックスRX「生研」

測定範囲拡大により、再検率の低減に貢献します。

測定範囲

4~2,000
ng/mL

特 徴

- ◆ ラテックス凝集免疫比濁法により、汎用自動分析装置を用いた広範囲な測定を実現しました。

使用目的

- ◆ 血清又は血漿中のフェリチンの測定

包装単位

■FER-ラテックスRX「生研」

統一商品番号	内容及び包装		
626349	緩衝液	R-1	30mL × 1
	ラテックス浮遊液	R-2	15mL × 1
626356	緩衝液	R-1	16mL × 2
	ラテックス浮遊液	R-2	8mL × 2
626363	緩衝液	R-1	30mL × 1
	ラテックス浮遊液	R-2	15mL × 1

標準液・コントロール(別売品)

■FER標準液 RX

統一商品番号	内容及び包装
626370	各2mL × 1本 × 5濃度 (100、200、500、1,000、2,000ng/mL)

■イムノキューセラⅡ

統一商品番号	製品名	内容及び包装
630056	イムノキューセラⅡ-(H)「生研」	3mL用 × 5本
630063	イムノキューセラⅡ-(L)「生研」	3mL用 × 5本

■イムノキューセラLQ

統一商品番号	製品名	内容及び包装
630445	イムノキューセラLQ-(H)	3mL用 × 3本
630452	イムノキューセラLQ-(L)	3mL用 × 3本

デンカ株式会社

【問い合わせ先】 試薬学術担当

〒103-8338 東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号

フリーダイヤル 0120-206-072 受付時間 9:00~17:00 (土日祝日・弊社休業日を除く)

◆ 総会長挨拶



総会長

大川 龍之介

東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 臨床分析・分子生物学分野

この度、第 37 回日本臨床検査医学会 関東・甲信越支部総会の総会長を拝命いたしました、東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 臨床分析・分子生物学分野 大川龍之介と申します。

近年、私たちの日常生活では、レストランでロボットが給仕を行い、写真を撮れば自動で美しく加工され、ニュースを読もうとすれば自分にあったおすすめの記事が自動的に提示されるようになりました。議事録作成やスケジュール調整、論文検索なども従来と比べてはるかに迅速に実行できるようになり、まさに「AI フル活用時代」の到来を実感いたします。

医療においても同様に、AI が診断や画像読影を支援し、さらには患者対応の一部にまで活用され始めています。臨床検査の方法やあり方も、間違いなく大きく変化していくでしょう。この大きな変革のうねりの中で、驚きと、翻弄と、そして楽しみを抱きつつ、その先にある「未来」を本総会のテーマとさせていただきました。

午前中の指導医講習では、R-CPC を通じて、その進め方について信州大学の松本 剛 先生にご講義いただきます。特別講演では、臨床検査の学会ではなかなか聴く機会のない、宇宙探索を通じて見えてくるヘルスケアについて、本学の関根 康人 先生にご講演いただきます。日立ハイテクとの共催セミナーでは、松尾 修二 先生、中沢 隆史 先生より、新たな病態アセスメントシステムについてご紹介いただきます。シンポジウムでは、検査部の臨床検査技師長である慶應義塾大学病院 荒井 智子 先生、千葉大学医学部附属病院 川崎 健治 先生、検査部長の虎の門病院分院 増田 亜希子 先生、東京慈恵会医科大学附属柏病院 政木 隆博 先生に、未来の検査部のあり方についてご講演いただく予定でございます。企画した私自身もとても楽しみにしております。事務局長の吉本 明、運営事務局の株式会社 CLeF とともに、本総会を視聴者のみなさまに楽しんでいただき、また今後の「未来」を考える一助となるよう尽力いたします。多くのみなさまにご参加いただけますと幸いです。

最後になりましたが、このような貴重な機会をお与えくださった、支部長 中山 智祥 先生、関係各位の先生方、ご協賛いただいた企業のみなさまに心より御礼申し上げます。

◆ 会場への交通アクセス



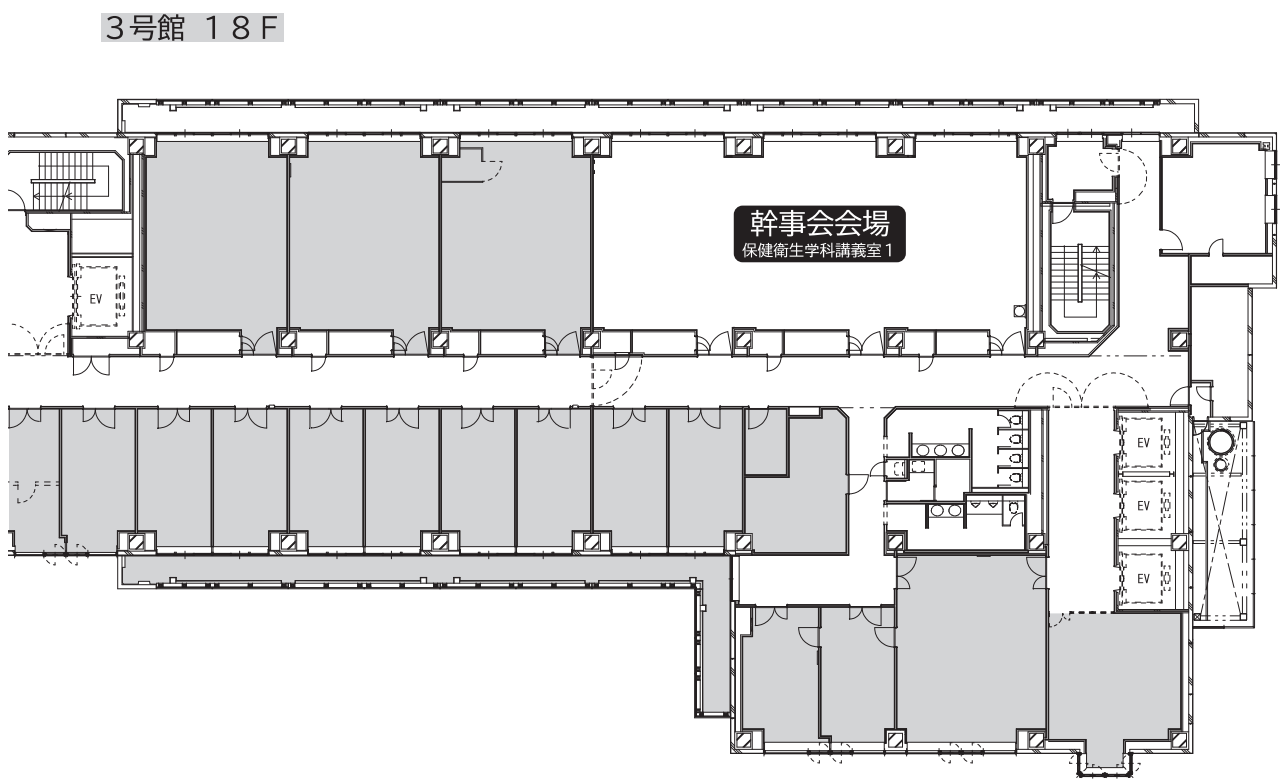
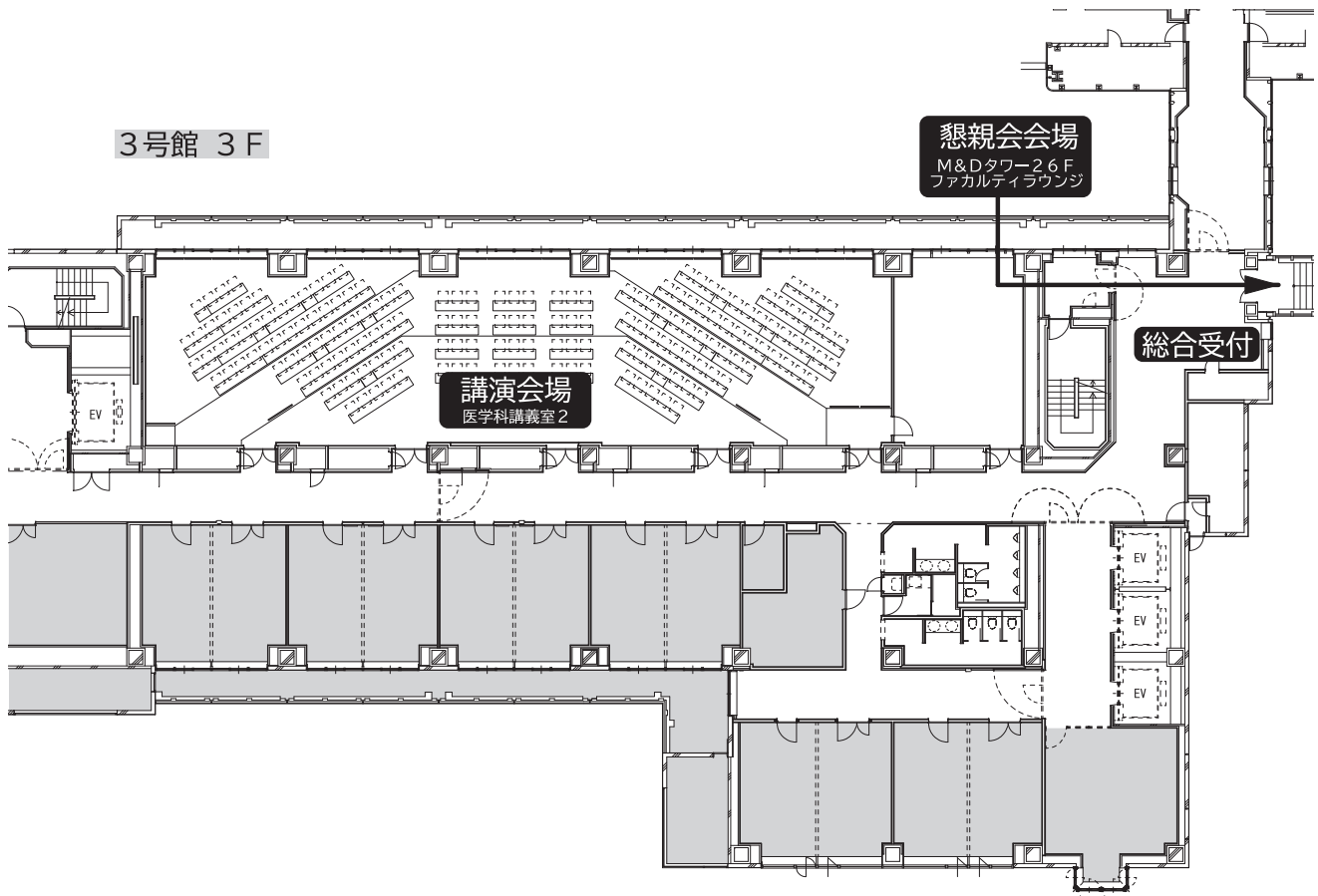
電車でお越しの方

- ・ JR 御茶ノ水駅 下車
- ・ 東京メトロ丸ノ内線 御茶ノ水駅 下車
- ・ 東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅 下車

バスでお越しの方

- ・ 東 43 系統 都バス東京駅北口ー荒川土手間 御茶ノ水駅前下車
- ・ 茶 51 系統 都バス駒込駅南口ー御茶ノ水駅間 御茶ノ水駅前下車

◆ 会場案内図



◆ 参加者へのご案内

1. 開催概要

第 37 回日本臨床検査医学会 関東・甲信越支部総会

会 期：2025 年 11 月 15 日（土）

会 場：東京科学大学 湯島キャンパス

〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45

開催形式：ハイブリッド開催（現地＋WEB 配信（リアルタイム））

総 会 長：大川 龍之介（東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 臨床分析・分子生物学分野）

テ ー マ：未来

2. 参加登録

事前参加登録または、現地での参加受付（現金のみ）をお願いいたします。

事前参加登録フォーム：<https://forms.gle/GE4VduxJrppWeekbA>

申込締切日：2025 年 10 月 31 日（金）

振 込 期 限：2025 年 11 月 6 日（木）

※上記 URL または QR コードよりお申込みください。

■参 加 費：1,000 円（会員：不課税／非会員：課税）

※学生・初期研修医は無料

※WEB 参加をご希望の方は、必ず 10 月 31 日（金）までにお申込みください。



お申込みQRコード

【現地参加の方】

- 事前参加登録の方は、総合受付内（事前参加受付ブース）にお越しください。
参加証（兼領収証）と抄録集をお渡しいたします。
- 当日参加受付の方は、総合受付内（当日参加受付ブース）で参加費の清算後（現金のみ）、
参加証（兼領収証）と抄録集をお渡しいたします。
総合受付：東京科学大学 湯島キャンパス 3 号館 3 階 ロビー
受付時間：2025 年 11 月 15 日（土）9：20～16：00

【WEB 参加の方】

会期までに、視聴 URL をご登録のメールアドレス宛にお送りいたします。

学会終了後、参加証（兼領収証）を送付いたします。抄録集の送付はございません。

3. 単位について

「臨床検査指導医講習」2 単位

- 指導医講習会：10：00～12：00

「臨床検査領域講習」1 単位

- シンポジウム：15：40～17：20

【現地参加の方】

- セッション開始後 15 分を超えての入場、セッション終了 15 分前の退場は受講とはみなされません。
- セッション終了 15 分前より、受講証明書をお渡しいたします。
※セッション開始後 15 分を超えて入場された方、セッション終了 15 分前に退場された方には、受講証明書をお渡しいたしません。

【WEB 参加の方】

- セッション開始後 15 分を超えてのログイン、セッション終了 15 分前のログアウトは受講とはみなされません。
- 受講確認後、受講証明書をメール添付でお送りいたします。
※セッション開始後 15 分を超えてログインされた方、セッション終了 15 分前にログアウトされた方には、受講証明書をお送りいたしません。

4. 懇親会について

【日 時】2025 年 11 月 15 日(土) 18:00 ~ 20:00

【会 場】東京科学大学 湯島キャンパス M&D タワー 26 階 ファカルティラウンジ

【参加費】4,000 円 ※課税(10%込)

※参加ご希望の方は、直接懇親会会場にお越しください。

懇親会会場前で受付(現金のみ)を行います。是非ご参加ください。

5. 注意事項

- 本会でのランチョンセミナーはございません。
近隣の飲食店、コンビニエンスストア等をご利用いただき、各自でご昼食をおとりくださいますようお願いいたします。
また、会場(医学科講義室 2)でのご飲食は禁止となっております。
昼食を持参された方のために、昼食会場として懇親会会場(M&Dタワー 26F)を 12:00 ~ 13:00 まで開放いたしますので、そちらをご利用ください。
- 会場内での参加者の呼び出しは行いません。
- 会場内では携帯電話をマナーモードに設定してください。
- 会場内は禁煙です。
- 許可の無い掲示・展示・印刷物の配布、カメラ、ビデオ、携帯電話等による撮影、録画、録音は一切禁止します。

6. 主催事務局

東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 臨床分析・分子生物学分野

〒113-8519 東京都文京区湯島 1-5-45 3 号館 16 階

事務局長：吉本 明

TEL：03-5803-5375

7. 運営事務局

株式会社 C L e F

〒710-0253 岡山県倉敷市新倉敷駅前 3 丁目 95

TEL：086-454-6190 FAX：086-454-6192

E-mail：jslm-kk37@c-lef.co.jp

◆ 座長・演者へのご案内

1. 進行情報

発表終了 1 分前に黄色ランプ、終了超過時には赤色ランプを点灯してお知らせします。円滑な進行のため、時間厳守をお願いいたします。

演台上には、モニター、キーボード、マウスをご用意いたします。演台に上がると、最初のスライドが表示されますので、その後の操作は各自でおこなってください。

2. 座長の先生方へのご案内

- 1) 担当セッション開始 15 分前までに、会場前方右側の「次座長席」にご着席ください。
- 2) 進行は座長に一任いたしますが、時間厳守にご協力をお願いいたします。
- 3) 発表時間につきましては、運営事務局よりご案内した時間配分をお願いいたします。

3. 演者の先生方へのご案内

発表データ受付後は発表の 10 分前までに、会場前方左側の「次演者席」にご着席ください。

1) PC 発表データの受付

【場 所】講演会場内（3 号館 3 階 医学科講義室 2）

※会場内左前方のオペレーター席

【受付時間】2025 年 11 月 15 日（土）9：20～15：10

※発表の 30 分前までにオペレータースタッフに発表データをお渡しください。

※オペレーター席での、データ修正や編集はご遠慮ください。

2) 発表方法

- 発表はすべて PC 発表 (PowerPoint) のみといたします。
- 発表データは、Windows PowerPoint で作成してください。
- PowerPoint の「発表者ツール」は使用できません。発表用原稿が必要な方は各自ご準備ください。
- 会場でのプリントアウトは対応しておりません。

【発表データ (USB) お持込みの場合】

- 作成に使用された PC 以外でも必ず動作確認を行っていただき、USB メモリーでご持参ください。
- フォントは文字化け、レイアウト崩れを防ぐため下記フォントを推奨いたします。

MS ゴシック, MSP ゴシック, MS 明朝, MSP 明朝, Arial, Century, Century Gothic, Times New Roman

- 動画があるデータを持参する場合は、動画などの参照ファイルも含め全てのデータを同じフォルダに保存してください。また、バックアップとして PC 本体をお持ちくださいますようお願いいたします。
- 発表データは学会終了後、事務局で責任を持って消去いたします。

【PC 本体お持込みの場合】

- 会場で用意する PC ケーブルコネクタの形状は「HDMI 端子 (図参照)」です。この端子を持つ PC をご用意ください。または、この形状に変換するコネクタを必要とする場合は必ずご持参ください。
- スクリーンセーバー、省電力設定は予め解除しておいてください。
- 動画や音声をご使用になる場合は、オペレーター席にてスタッフにお知らせください。
- バッテリー切れを防ぐために AC 電源アダプターをご用意ください。
- 万が一パソコンが不調な場合に備えてデータのバックアップを USB メモリーでご用意ください。
- ご自身の発表時間 30 分前までに講演会場内のオペレーターに PC をお渡しください。
- 発表終了後、会場内のオペレーター席にて PC を返却いたしますので、速やかにお受け取りください。



◆ 2025 年 11 月 15 日 (土) 支部総会日程表

	講演会場 (3号館 3階 医学科講義室2)	保健衛生学科講義室 1 (3号館 18階)
10:00	9:50~10:00 開会の挨拶	
	10:00~12:00	
	指導医講習会	
	「RCPC 50 歳代男性、1 病日に入院した。」	
	出題者・解説：松本 剛	
11:00	回答者：鉢呂 彩花／清水 梨帆	
	山崎 あずさ／波木井 優奈	
	RCPC (日本臨床検査医学会－教育委員会主催)	
	※臨床検査指導医講習	
12:00		12:05~12:50 幹事会
13:00		
	13:15~14:15 特別講演	
	「太陽系探査と宇宙と未来のトータルヘルスケア」	
	座長：大川 龍之介	
14:00	演者：関根 康人	
	14:30~15:30 共催セミナー	
	「日常検査を活かす病態アセスメントシステム」	
15:00	座長：東田 修二	
	演者：松尾 収二／中沢 隆史	
	共催：株式会社日立ハイテク	
	15:40~17:20 シンポジウム	
	「未来の検査部のあり方」	
16:00	座長：市村 直也、浅井 さとみ	
	演者：荒井 智子／川崎 健治	
	増田 亜希子／政木 隆博	
	※臨床検査領域講習	
17:00		
	17:20~ 閉会の挨拶	
	18:00~20:00 懇親会 (会場：東京科学大学 湯島キャンパス M&Dタワー26階 ファカルティラウンジ)	

◆ プログラム

開会の挨拶 9:50 ~ 10:00

指導医講習会 10:00 ~ 12:00

「RCPC 50 歳代男性、1 病日に入院した。」

出題者・解説：松本 剛（信州大学医学部医学科 病態解析診断学教室／信州大学医学部附属病院 臨床検査部）

回答者：鉢呂 彩花（信州大学医学部附属病院 臨床検査部 微生物検査室）

清水 梨帆（信州大学医学部附属病院 臨床検査部 検体検査室）

山崎 あずさ（東京科学大学病院 検査部 血液検査室）

波木井 優奈（東京科学大学病院 検査部 臨床化学検査室）

RCPC（日本臨床検査医学会 教育委員会主催）

※日本専門医機構基本領域 臨床検査指導医講習 2 単位に認定されています。

幹事会 12:05 ~ 12:50

特別講演 13:15 ~ 14:15

座長：大川 龍之介（東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 臨床分析・分子生物学分野）

「太陽系探査と宇宙と未来のトータルヘルスケア」

関根 康人（東京科学大学 未来社会創成研究院 地球生命研究所 所長）

共催セミナー 14:30 ~ 15:30

座長：東田 修二（東京科学大学 名誉教授）

「日常検査を活かす病態アセスメントシステム」

演者：松尾 収二（株式会社日立ハイテク ヘルスケア事業統括本部 学術顧問）

中沢 隆史（株式会社日立ハイテク ヘルスケア事業戦略本部）

シンポジウム 15:40 ~ 17:20

「未来の検査部のあり方」

座長：市村 直也（東京科学大学病院 検査部）

浅井 さとみ（東海大学医学部 基盤診療学系臨床検査学）

「臨床検査技師の未来像」

講演 1：荒井 智子（慶應義塾大学病院 臨床検査技術室）

「大学病院臨床検査部門の未来 ―総論と各論、思考と実践―」

講演 2：川崎 健治（千葉大学医学部附属病院 検査部）

「市中病院検査部の現状と未来への展望」

講演 3：増田 亜希子（虎の門病院分院 臨床検査部）

「未来を見据えた病院検査部の診療参画 ～肝炎患者受診勧奨システムの整備を通じて～」

講演 4：政木 隆博（東京慈恵会医科大学附属柏病院 中央検査部）

※日本専門医機構基本領域 臨床検査専門医更新のための臨床検査領域講習 1 単位に認定されています。

閉会の挨拶 17:20 ~ 17:30

◆ 抄 録

指導医講習会

「RCPC 50 歳代男性、1 病日に入院した。」

特別講演

「太陽系探査と宇宙と未来のトータルヘルスケア」

共催セミナー

「日常検査を活かす病態アセスメントシステム」

シンポジウム「未来の検査部のあり方」

講演 1：臨床検査技師の未来像

講演 2：大学病院臨床検査部門の未来 ―総論と各論、思考と実践―

講演 3：市中病院検査部の現状と未来への展望

講演 4：未来を見据えた病院検査部の診療参画

～肝炎患者受診勧奨システムの整備を通じて～

◆ 指導医講習会

RCPC 50 歳代男性、1 病日に入院した。

松本 剛¹⁾、鉢呂 彩花¹⁾、清水 梨帆¹⁾、山崎 あずさ²⁾、波木井 優奈²⁾

1) 信州大学医学部附属病院臨床検査部、2) 東京科学大学病院検査部

患者の初診時や入院時に一通り行われる検体検査をルーチン検査または基本的検査と呼び、一般的には血算、生化学、凝固線溶、尿検査および血液ガス分析を指すことが多い。これらの検査は世界中で日々行われているが、これらのデータは十分に活用はされていない。ルーチン検査から患者の病態を把握するために Reversed Clinicopathological Conference (RCPC) というトレーニングがある。これは臨床検査の結果から患者の病態を推測することを目的とする。RCPC はあくまでトレーニングであり、検査値だけから診断を付けようとするものではない。あえてルーチン検査しかわからないという不自由な状態で検査値を深く解釈することができれば、より情報の多い日常診療や検査の中で、検査データを十分に活用できるようになると考えられる。

臨床検査医および臨床検査技師が臨床検査の結果から病態を推論できることは重要であり、そのため RCPC は臨

床検査医学領域の学術集会で広く行われている。特に臨床検査専門医は、RCPC を開催したり指導したりすることが求められている。RCPC を指導するためには、適切に開催された RCPC に参加することが必要である。今回、第 37 回関東・甲信越支部総会では、日本臨床検査医学会教育委員会が主催し、指導医講習として RCPC を行う。2 名ずつ 2 グループの臨床検査技師が回答者として登壇する。事前にルーチン検査結果を提示しているため、当日はその検査結果から病態を推論し発表してもらい、会場を含め検討を行いたい。会場で参加される方は、ぜひ事前に検査結果を検討し、自分なりの解釈を持ってご参加いただき、当日はどのように RCPC を進めるのか、回答者の発表に対してどのように検討を広げていくかなどにも注目してご参加いただければ幸いである。

【略 歴】 松本 剛(まつもと ごう)

現 職 信州大学医学部病態解析診断学・同附属病院臨床検査部 助教

職 歴 2008 年 - 長野市民病院初期研修医

2010 年 - 2012 年 信州大学病院および長野市民病院で救急科研修

2013 年 - 信州大学医学部附属病院臨床検査部

所属学会 日本臨床検査医学会(教育委員会、ワークライフバランス委員会、専門医制度委員会)、日本救急医学会、日本感染症学会、日本化学療法学会、日本臨床微生物学会

資 格 臨床検査専門医、救急科専門医、ICD

50歳代男性、1病日に入院した。

採取日	-35病日	1病日	2病日	3病日	4病日	5病日	8病日	11病日	基準範囲
採取時間	10:00	12:40	8:00	8:00	8:00	8:00	8:00	8:00	
TP	7.0	4.9	4.1	4.8	5.3	5.8	5.1	5.6	6.6-8.1 g/dL*
ALB	3.5	2.2	2.0	2.5	2.6	2.8	2.3	2.5	4.1-5.1 g/dL*
UN	9.3	46.3	66.9	41.3	26.2	17.1	14.3	11.9	8.0-20.0 mg/dL*
Cre	0.94	1.49	2.07	1.11	1.04	0.93	0.98	0.96	0.65-1.07 mg/dL*
eGFRcre	65	39	27	54	58	65	62	63	mL/min/1.73m ²
AST	37	66	130	146	162	110	42	59	13-30 U/L*
ALT	19	16	23	31	40	41	24	26	10-42 U/L*
γGT	131	71	54	55	63	68	58	61	13-64 U/L*
T-bil	4.0	6.9	6.6	6.8	6.9	6.4	2.8	2.7	0.4-1.5 mg/dL*
D-bil	1.8		3.7	3.9	4.2	3.4	1.5	1.3	0.1-0.4 mg/dL
ALP(IFCC)	92	70	51	57	65	75	62	79	38-113 U/L*
LD	227	312	403	371	360	358	266	316	124-222 U/L*
CK	273	903	754	663	413	337	109	90	59-248 U/L*
AMY	43	33	31	36	44	49	48	60	44-132 U/L*
P-AMY		14	17	25					22-55 U/L
ChE	141	80	80	103					240-486 U/L*
Na	140	141	146	145	148	140	137	137	138-145 mmol/L*
K	3.8	3.7	3.0	3.1	3.6	3.2	3.7	4.2	3.6-4.8 mmol/L*
Cl	105	93	103	107	109	105	106	108	101-108 mmol/L*
Ca	8.6	7.8	7.0	7.3					8.8-10.1 mg/dL*
iP		2.1	1.3	1.4					2.7-4.6 mg/dL*
GLU	124	285	124	127	132	122	116	127	73-109 mg/dL*
CRP	0.17	0.77	0.73	1.20	1.14	0.85	1.58	0.69	0-0.14 mg/dL*
NH3			100	91		66	61	84	12-66 μg/dL
WBC	6.0	14.0	7.6	4.6	4.6	5.9	4.4	6.7	3.3-8.6 x10 ³ /μL*
Neut%	77.0	81.2	63.1	68.1	70.6	68.6	60.1	70.9	41.8-75.0 %
Eosino%	0.5	0.1	0.3	1.3	0.9	1.3	1.1	1.2	0.4-8.7 %
Baso%	0.5	0.1	0.3	0.4	0.2	0.3	0.5	0.4	0.2-1.5 %
Mono%	7.5	7.3	9.6	8.1	9.3	9.1	17.7	8.6	2.2-7.9 %
Lympho%	14.5	11.3	26.7	22.1	19.0	20.7	20.6	18.9	18.5-48.7 %
RBC	2.76	1.87	2.09	2.65	2.82	3.13	2.63	2.90	4.35-5.55 x10 ⁶ /μL*
Hb	8.6	5.8	6.5	8.1	8.6	9.8	8.5	9.4	13.7-16.8 g/dL*
HCT	26.8	19.3	18.3	23.3	25.7	29.1	25.0	29.0	40.7-50.1 %*
MCV	97.1	103.2	87.6	87.9	91.1	93.0	95.1	100.0	83.6-98.2 fL*
MCH	31.2	31.0	31.1	30.6	30.5	31.3	32.3	32.4	27.5-33.2 pg*
MCHC	32.1	30.1	35.5	34.8	33.5	33.7	34.0	32.4	31.7-35.3 %*
PLT	89	91	47	39	39	52	56	107	158-348 x10 ³ /μL*
PT	17.0	27.6	25.3	20.6	20.1	17.8	17.1	16.3	秒
PT-INR	1.40	2.38	2.19	1.73	1.68	1.47	1.43	1.35	0.85-1.15
APTT		32.9	40.3	35.9	31.2	31.5	36.2	35.5	23.0-38.0 sec
FIBG		70	79	118	133	157	211	215	180-350 mg/dL
D-イマー		1.8							0-1.0 μg/mL
AT		36	36	57	75	93	69	63	80-120 %
酸素投与		RA		NC 1.0L					
動脈/静脈		静脈		動脈					動脈血基準範囲
pH		7.38		7.52					7.34-7.45
PCO ₂		28.5		40.1					32.0-45.0 mmHg
PO ₂		36.3		104.0					75.0-100.0 mmHg
HCO ₃		21.5		32.2					22.0-28.0 mmol/L
G-Lac		16.1		0.5					0.4-1.8 mmol/L

RA:Room Air、NC1L:Nasal Cannula 1L/min、*：共用基準範囲、その他：信州大学病院基準範囲

◆ 特別講演

太陽系探査と宇宙と未来のトータルヘルスケア

関根 康人

東京科学大学 未来社会創成研究院 地球生命研究所 所長

現在、太陽系探査、そして人類の活動範囲の宇宙への拡大が、急速に進みつつある。地球の隣の惑星・火星では、40 億年前に海であった水が、現在は地下に凍土として保存されている。近年では、そのような凍土の空間分布を明らかにしようとする周回衛星探査や、その場に着陸して凍土にアクセスする着陸探査も計画されている。また、木星・土星の衛星には、氷表面下に広大な液体の地下海を持つ天体も複数見つかっている。これら天体においては、凍土や地下海における生命存在の可能性の解明も、次期探査での科学目標となっている。

地球外において探査機がアクセスできる場所に水氷が存在する場合、そこに人類が居住する計画も立てられている。水を電気分解してエネルギーとして利用する「水素化社会・カーボンフリー技術」は、効率的な太陽光発電と共に宇宙に転用され、宇宙における人類の活動範囲の拡大に大

きな貢献をしようとしている。

一方で、人類が宇宙に活動を広げるにあたっての大きな問題は健康である。放射線やダストなどの影響、低重力による筋力・骨密度低下、さらには閉鎖環境でのストレスや感性への影響などは、年単位で宇宙に生活する場合、致命的な影響を及ぼし得る。専門医や医療機器が不足する（あるいは存在しない）宇宙において重要となるのは、ヒトの健康をモニタリングし、疾患や怪我のリスクを即時予測する予防医学、さらにはヒトの健康を総合的に診るトータルヘルスケアである。これらは、宇宙において必要となるだけでなく、培われた技術や知見は、高齢化や一人暮らし化が進む近未来の地上にとっても大きな裨益となる。

本発表では、そのような太陽系探査の進展、宇宙への人類活動の拡大、さらには予防医学やトータルヘルスケアの宇宙への展開・転用の可能性について講演する。

【略 歴】 関根 康人（せきね やすひと）

2001 年 3 月東京大学理学部卒業、2006 年東京大学大学院理学系研究科卒業。博士（理学）。東京大学助教、講師、准教授を経て、2018 年より東京工業大学（現・東京科学大学）地球生命研究所教授、2022 年より同研究所所長に就任。

◆ 共催セミナー

日常検査を活かす病態アセスメントシステム

松尾 収二

株式会社日立ハイテク ヘルスケア事業統括本部 学術顧問／天理よろづ相談所病院臨床検査部 非常勤医師／
(株)ファルコバイオシステムズ 学術顧問

中沢 隆史

株式会社日立ハイテク ヘルスケア事業戦略本部

病態アセスメントを日常の“業”とし、“臨床”検査たらしめん。

病態解析・アセスメントは付加価値ではない。できていないだけである。検査の技術が進化し、分析装置や試薬も安定、そして分析、管理する臨床検査技師の技量も上がってきた。もう一段上がる時である。それが病態アセスメントシステムである。RCPC が盛んであるが、これも何とかアセスメントに活かしたいとの思いで、このシステムが誕生した。日常検査には病態の糸口があるが、診療に結び付くには主治医の行動変容が必要である。診療レベルの向上に寄与し、検査室もやりがいを感じる仕組みをつくりたい、との思いである。

病態アセスメントシステムの概要

本システムは、自動的に病態・病気を主治医に報告するものでもない。ロジックを用いて日常検査から目的とする病気・病態事例を検出し、これを検査担当者がチェック、アセスメントして主治医に報告するものである。報告時は主治医との情報交換が必要となることが多いであろう。

日常検査の範囲は、生化学自動分析装置で分析されたものであるが、検査システムや健診システムへの活用も検討を始めたところである。極異常値の速報、臨床研究、そして教育にも活用できる。

提供したロジックはたたき台であり、簡単に改変できるように工夫されている。施設ごとのロジックの組み込みが可能である。また、検出された事例の検査データや臨床情報が蓄積できる仕組みを有する。本システムの有用性を評価し、ロジックの改変・進化に活用するためである。

皆で育て、ともに育つ。everyone for everyone

本システムは誕生したばかりである。ロジックの意味や検出後の対応の仕方を記した手引きを作成中である。手引きや評価の仕組みも備えて、はじめてシステムと考えている。本システムは多くの施設で共有できるし、各施設の特徴も表現できる。皆さんとともに育てていける環境もつくっていききたい。

【略 歴】 松尾 収二(まつお しゅうじ)

1979 年 山口大学医学部卒業
1979 年 天理よろづ相談所病院 レジデント (Jr 2 年・Sr 3 年)
1984 年 同 臨床病理部 医員
1991 年 同 同 副部長
1996 年 同 同 部長
2010 年 天理医療大学設立準備室(兼務)
2012 年 天理医療大学(現・天理大学) 教授(臨床検査学科長)
2017 年 天理よろづ相談所病院 臨床検査部長
2019 年 同 特定嘱託部長
2021 年 同 臨床検査部非常勤医師
天理教教庁健康管理室 室長(産業医) 出向

【略 歴】 中沢 隆史(なかさわ たかし)

2006 年 北海道大学 大学院理学研究科 化学専攻
博士後期課程修了 博士(理学) 取得
2006 年 株式会社日立製作所 ライフサイエンス
推進事業部 入社
2007 年 株式会社日立ハイテクノロジーズ(現日立
ハイテク) 転籍

◆ シンポジウム「未来の検査部のあり方」

講演 1：臨床検査技師の未来像

荒井 智子

慶應義塾大学病院 臨床検査技術室

現在、臨床検査技師を育成する教育機関は、大学、短期大学、専門学校を含め全国に約 68 校存在し、毎年約 4,000 人の新たな臨床検査技師が誕生している。しかし将来的には、臨床検査件数が 2030 年をピークに減少に転じ、2045 年以降には総件数自体が 2019 年を下回ると予測されている（古賀ら、2023 年）。これに伴い、臨床検査技師の需要も減少すると見込まれる。さらに、革新的な技術である AI の発展により、各検査分野における臨床検査業務は大きく変化することが想定されている。近い将来、AI 技術が実用化されることで、臨床検査技師に求められる能力も大きく変わる可能性がある。

当院臨床検査技術科では、検体検査、生体検査、採血業務、病理検査、輸血検査、細胞療法業務、胚培養業務など、多岐にわたる業務を担っている。これまでは、セクションを細分化し専門性を高めることで、各領域における知識と技術の向上に努めてきた。しかし近年の医療現場では効率

化が求められており、今後は基本的な業務を共通化したいうえで、まず「ジェネラリスト」として幅広い知識を習得し、その後「スペシャリスト」、さらには一部職員には管理業務を担う能力を養うというキャリアプランへの移行が求められている。

当院では本年末には検体検査機器の更新が予定されている。これを契機として、生化学検査・血液検査・一般検査の各セクションにおける自動分析装置の運用を共通化し、「自動分析装置グループ」「鏡検グループ」「マニュアル検査グループ」「データチェックグループ」へと再編する予定である。このような体制の再構築を通じて、多分野にわたる検査知識を統合的に習得し、さまざまな検査結果を解釈・考察する力を養成していく。同時に、個々のキャリアプランを明確化することで、大学病院における臨床検査技師として、院内外を問わずその専門性と役割を十分に発揮できる人材の育成に努めていきたい。

【略 歴】 荒井 智子（あらい ともこ）

【学歴・略歴】

1990.3 東京文化医学技術専門学校 卒業

（現：新渡戸文化短期大学臨床検査学科）

1990.4 慶應義塾大学病院 中央臨床検査部 入職

2010.6 慶應義塾大学病院 中央臨床検査部 副主任

2018.4 慶應義塾大学病院 臨床検査技術室（臨床検査科）主任

2020.11 慶應義塾大学病院 臨床検査技術室 課長

2025.4 慶應義塾大学病院 臨床検査技術室 室長代理

【資格】

1990 年 臨床検査技師免許

1999 年 二級臨床検査士 血液学

2005 年 認定血液検査技師

2018 年 認定骨髓検査技師

【所属学会・役職】

日本検査血液学会 理事

（認定血液検査技師試験副委員長 カリキュラム委員会委員 国際委員会委員）

私立医科大学臨床検査技師会 理事

日本臨床検査医学会

日本医療検査科学会

日本臨床衛生検査技師会

講演 2：大学病院臨床検査部門の未来 ―総論と各論、思考と実践―

川崎 健治

千葉大学医学部附属病院 検査部

国立大学病院全体での 2024 年度の赤字額は 285 億円にのぼり、当院もその赤字を抱える大学病院の一つである。経営危機や人材不足など、「暗い話題」には事欠かないが、それを上回る魅力が大学病院には確かに存在している。

しかし現実には、いくつかの要因によって当院の採用試験の求人倍率は低く、「選ばれにくい職場」であることは否定できない。これは国立大学全体の傾向とは限らないが、私たちは「選ばれる職場」へと変革していく必要がある。臨床検査の理想を追求め、それを実践することにやりがいを感じる方にとって、大学病院ほどふさわしい職場はない。私たちは、大学病院で日々行う臨床検査こそが、未来の臨床検査であるという信念を持っている。

国立大学病院における臨床検査は、社会のニーズを敏感に捉えながら、学術的な思考を活かして実践できる場である。そこで働く臨床検査技師には、社会還元や社会実装を

見据えた臨床検査の未来を創ることが求められている。日常検査における技術力や知識の向上によって臨床検査の精度を維持し、必要な時に迅速に結果を報告することは、臨床検査の業務の根幹であり、今後も変わることはない。しかし、それだけにとどまらず、社会の視点から臨床検査を捉える姿勢も重要である。

本シンポジウムでは、2030 年の医療 DX のあるべき姿、さらには 2030 年代において臨床検査がより社会と密接に関わる時代に向けて、臨床検査の研究体制の構築、研究マインドの醸成、そして新たなタスクの創出といった諸課題について議論を深めたいと考えている。

本シンポジウムを通じて、本学会が臨床検査の未来にどのようなビジョンを描くべきか、またその価値を社会に提供していくための体制について議論を重ねることで、若い世代のキャリア形成にも貢献できれば幸いである。

【略 歴】 川崎 健治（かわさき けんじ）

【職歴】

1997.4 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 入職
 2002.3 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 退職
 2004.4 国立大学法人信州大学医学部附属病院 入職
 2010.4 国立大学法人信州大学医学部附属病院 主任
 2012.4 国立大学法人信州大学医学部附属病院 副臨床検査技師長
 2018.9 国立大学法人信州大学医学部附属病院 退職
 2018.10 国立大学法人千葉大学医学部附属病院 臨床検査技師長
 現在に至る。

【資格】

1997 年 臨床検査技師免許
 2016 年 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師
 2024 年 バイオリポジトリ技術管理士 (BiTA)
 2024 年 第一種衛生管理者・衛生工学衛生管理者

【所属学会】

日本臨床衛生検査技師会
 千葉県臨床検査技師会
 日本臨床検査医学会 標準化委員会委員 医療安全委員会委員 臨床検査点数委員会委員
 日本臨床化学会 理事 法務委員会委員長 ピットフォール研究専門委員会委員
 日本医療検査科学会 評議員 科学技術委員会委員
 日本質量分析学会

講演 3：市中病院検査部の現状と未来への展望

増田 亜希子

虎の門病院分院 臨床検査部

わが国の病院の 6 割以上は赤字経営とされている。検査部は様々な診療科・部を支える存在である一方、診療科と異なり稼働額による評価は困難であるため、病院の執行部から評価を得るのは難しい。そのため、業務量の増加に伴う臨床検査技師の増員や、老朽化した検査機器の更新など、検査部の運営上重要な要望を出したとしても、実現までのハードルは高い。現状はネガティブな話題ばかりだが、シンポジウムのテーマは「未来の検査部のあり方」であるため、未来への展望も含めて中規模の市中病院検査部がどのように取り組んでいくべきか、私見を述べたい。

虎の門病院分院（神奈川県川崎市）は 300 床だが、回復期リハビリテーション病棟などがあるため、急性期病床は 201 床と少ない。しかし、腎センターと血液内科がそれぞれ 50 床以上を占めており、造血幹細胞移植や多発性嚢胞腎など、専門的な医療を要する患者が多く受診している。そのため、同規模の他施設に比べて検査件数が多く、また

輸血の使用量は非常に多い（2025 年 5 月は血小板輸血の使用量が神奈川県内で 1 位）。人員不足の状況での検査部の運営には工夫が必要である。臨床検査技師以外でも対応できる業務は検査補助者に任せる（タスクシフト）、検体前処理が簡潔な機種を導入することが挙げられる。また、AI を活用した超音波検査装置の導入などを目指したい。加えて、検査部の活動を病院の執行部や他部署に理解していただくことも重要である。精度の高い検査結果を迅速に返却することを基本に、新規検査項目の導入、パニック値報告や院内感染対策などの日々の活動、学会発表や臨床研究など、様々な形でアピールを継続したい。

私は日本臨床検査医学会など複数の学会の理事としても活動しており、臨床検査医のリクルートや専攻医の指導にも携わっている。市中病院検査部における臨床検査医の役割や専攻医教育についても触れられればと考えている。

【略 歴】 増田 亜希子（ますだ あきこ）

2001 年 3 月 群馬大学医学部医学科 卒業
 2001 年 5 月 東京大学医学部附属病院 内科研修医
 2002 年 6 月 東京厚生年金病院 内科
 2004 年 6 月 東京大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科 入局（医員）
 2005 年 4 月 東京大学大学院医学系研究科臨床病態検査医学 入学
 2009 年 3 月 東京大学大学院医学系研究科臨床病態検査医学 修了，学位取得
 2009 年 4 月 東京大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科 助教
 2010 年 4 月 東京大学医学部附属病院 検査部 助教
 2015 年 3 月 東京大学医学部附属病院 検査部 特任講師（病院）
 2017 年 4 月 社会福祉法人 三井記念病院 臨床検査科 科長
 2020 年 4 月 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院分院 臨床検査部 部長

【資格】

博士（医学）（東京大学）
 日本臨床検査医学会 臨床検査専門医・管理医
 日本血液学会 血液専門医・指導医
 日本内科学会 総合内科専門医・認定内科医
 日本サイトメトリー学会 認定サイトメトリー技術者
 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
 日本医師会認定産業医

【学会等の活動】

厚生労働省 特発性造血障害に関する調査研究班 センtralレビュー委員
 日本臨床検査医学会：理事，評議員，関東・甲信越支部幹事など
 日本検査血液学会：総務担当理事，評議員，認定骨髓検査技師試験小委員会委員長など
 日本医療検査科学会：理事，評議員，血液検査機器技術委員会委員
 日本臨床検査専門医会：常任理事（会計担当）
 日本サイトメトリー学会：理事，代議員

【受賞歴】

2011 年 黒住医学研究振興財団 研究助成金
 2015 年 日本臨床検査医学会 若手研究者奨励賞

講演 4：未来を見据えた病院検査部の診療参画 ～肝炎患者受診勧奨システムの整備を通じて～

政木 隆博

東京慈恵会医科大学附属柏病院 中央検査部／東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座

医療の高度化とチーム医療の推進により、近年の病院検査部には検査実施部門としての役割だけでなく、診療現場への積極的な参画が求められている。迅速で正確な検査結果の提示はもちろんのこと、病態の理解を支えるデータ解釈や診断・治療方針決定への助言など、検査技師や専門医によるコンサルテーション機能の強化が重要となる。一方で、感染対策、輸血管理、病理診断支援など、臨床との連携が既に進んでいる領域もある。今後の病院検査部には、検査技術の向上に加え、対話力・判断力・多職種連携力といった「診療に貢献する力」が求められ、医療の質と安全を支える中核的存在としての役割が一層期待されている。

このような背景のもと、当院検査部が主体となって診療支援を行っている事例を紹介する。肝炎ウイルス陽性者への受診勧奨システムの構築である。肝炎ウイルス検査で陽性と判定された患者の中には、その後の受診や精密検査につながらず、治療介入の機会を逸するケースが少なくない。

こうした課題に対し、当院では 2024 年度より肝炎ウイルス陽性者受診勧奨システムを導入した。このシステムの概要は以下の①～③である。①肝炎ウイルス検査陽性時に陽性者の電子カルテ上にアラートが表示される。②担当医が電子カルテから出力した説明・同意文書を用いて陽性者に検査結果を説明し、肝臓専門医への受診勧奨を行う。③検査部では陽性者を月ごとに抽出し、必要に応じて陽性結果を担当医に報告する。また、陽性者に対する担当医の対応を電子カルテ上で確認する。

現在、この肝炎患者受診勧奨システムの有用性を検証中である。しかし、いまだに肝臓専門医への紹介・受診率は十分ではない。受診勧奨をさらに効果的に進めるためには診療科に対してより積極的な介入が必要と考える。本取組みは、病院検査部が診療現場と協働して医療課題に積極的に介入する好例であり、今後の検査部のあり方を示唆するものである。

【略 歴】 政木 隆博(まさき たかひろ)

1995 年 3 月 自治医科大学医学部医学科 卒業
 1995 年 5 月 神奈川県立厚木病院(現 厚木市立病院) 研修医
 1997 年 4 月 神奈川県立厚木病院(現 厚木市立病院) 内科医員
 1998 年 4 月 神奈川県立煤ヶ谷診療所 常勤医師
 2001 年 4 月 神奈川県立がんセンター消化器内科 主任医師
 2004 年 4 月 国立感染症研究所ウイルス第二部 協力研究員
 2008 年 10 月 国立感染症研究所ウイルス第二部 主任研究官
 2011 年 9 月 米国ノースカロライナ大学チャペルヒル校医学部 博士研究員
 2014 年 9 月 国立感染症研究所ウイルス第二部 主任研究官
 2016 年 4 月 東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座 講師
 2016 年 4 月 東京慈恵会医科大学附属病院中央検査部 診療医員
 2019 年 8 月 東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座 准教授
 2020 年 7 月 東京慈恵会医科大学附属病院中央検査部 診療医長
 2022 年 5 月 東京慈恵会医科大学附属柏病院中央検査部 診療部長
 2023 年 3 月 東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座 教授
 現在に至る

第 37 回日本臨床検査医学会 関東・甲信越支部総会の開催にあたりまして、
以下の企業様に多大なるご支援を賜りました。
ここに謹んで御礼申し上げます。

共催セミナー

株式会社日立ハイテク

広告

アボットジャパン合同会社

株式会社エイアンドティー

栄研化学株式会社

大塚電子株式会社

金原出版株式会社

キヤノンメディカルシステムズ株式会社

シスメックス株式会社

株式会社シノテスト

デンカ株式会社

東ソー株式会社

株式会社メテオ

(敬称略・五十音順)

2025 年 10 月

第 37 回日本臨床検査医学会 関東・甲信越支部総会
総会長 大川 龍之介

Make the Future with Sysmex

シスメックスの信頼と安心を

私たちシスメックスは、研究開発からサービス&サポートまでの一貫体制で
お客様に最高の安心をご提供いたします。
世界中のお客様の声を新たな価値創造へ。
お客様の期待に応える確かな品質。
きめ細やかなサービス&サポート。
シスメックスだからできる多様なニーズにお応えするトータルソリューション。
私たちは、お客様に安心をご提供することで、
医療の発展や健やかな暮らしに貢献してまいります。

全自動免疫測定装置
HISCL™-5000



医療機器製造販売届出番号:28B1X10014000011

製造販売元

シスメックス株式会社

(お問い合わせ先)

支店 仙台 022-722-1710	北関東 048-600-3888	東京 03-5434-8550	名古屋 052-957-3821	大阪 06-6341-6601	広島 082-248-9070	福岡 092-687-5380
営業所 札幌 011-700-1090	盛岡 019-654-3331	長野 0263-31-8180	新潟 025-243-6266	千葉 043-297-2701	横浜 045-640-5710	静岡 054-287-1707
金沢 076-221-9363	京都 075-255-1871	神戸 078-251-5331	高松 087-823-5801	岡山 086-224-2605	鹿児島 099-222-2788	



注：活動及びサイトの適用範囲は規格により異なります。
詳細は www.tuv.com の ID 0910589004 を参照。
Note: Scopes of sites and activities vary depending on the standard.
For details, refer to the ID 0910589004 at www.tuv.com

人生 100 年時代 . . . いつまでも元気に過ごしたい!!



フレイルの進行を「年だから仕方がない」として対策を取らずにいと、フレイル・サイクルに陥ることが懸念されています。亜鉛欠乏の症状である味覚障害は、食欲低下とそれに伴う虚弱・筋力低下・サルコペニアにつながる可能性が指摘されています。¹⁾

血清亜鉛値は加齢とともに低下することが知られています。²⁾

**栄養状態の指標となる血清アルブミンなどと共に
血清亜鉛の検査を受けませんか？**

【参考文献】 1) 日本医事新報社：日本医事新報：2020, 5022, 12-15. 2) 倉澤 隆平、久堀 周治郎：生物試料分析：2008, 31(2), 110-120.

 **株式会社 シノテスト**

<https://www.shino-test.co.jp>

第 1 版：2025 年 6 月

より迅速に、より精度良く、より簡単に AIA[®]-CLシステム

特長

- ご施設の測定数に応じ、大中小の3機種をラインナップ
- 化学発光基質DIFURAT[®] 使用による高感度測定と検体量低減
- 結果報告時間約15分(一部項目は除く)
- 校正試薬、検体希釈試薬の凍結乾燥カップ化
- 日常点検、キャリブレーションの予約実行機能搭載
- 3機種で同じ試薬(AIA-パックCL[®] 試薬)を使用可能
機種によらず同じ測定値を報告

全自動化学発光酵素免疫測定装置

AIA-CL1200

製造販売届出番号 13B3X90002000020
スループット 最大120テスト/時

全自動化学発光酵素免疫測定装置

AIA-CL2400

製造販売届出番号 13B3X90002000018
スループット 最大240テスト/時

化学発光酵素免疫測定試薬

AIA-パックCL[®] 試薬

全自動化学発光酵素免疫測定装置

AIA-CL300

製造販売届出番号 13B3X90002000021
スループット 最大30テスト/時

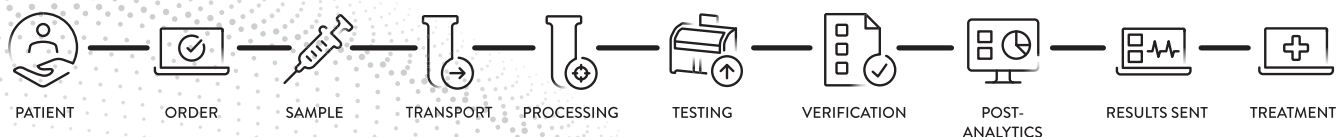


東ソー株式会社
バイオサイエンス事業部

東京本社営業部 ☎(03)6636-3734 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-2-1
大阪支店 バイオサイエンスG ☎(06)6209-1948 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-4-9
名古屋支店 バイオサイエンスG ☎(052)211-5730 〒460-0008 名古屋市中区栄1-2-7
福岡支店 ☎(092)710-6694 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-8-10
仙台支店 ☎(022)266-2341 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-11-1
カスタマーサポートセンター ☎(0467)76-5384 〒252-1123 神奈川県綾瀬市早川2743-1
ホームページ <https://www.diagnostics.jp.tosohbioscience.com/>

FIND OUT HOW TO OPTIMIZE YOUR DIAGNOSIS CYCLE

検査の始まりから終わりに至るあらゆる課題解決を通じて、
お客様とともに、ワークフローの最適化、患者ケアの強化、臨床検査の価値向上を目指します。



アボットジャパン合同会社 診断薬・機器事業部

〒108-6305 東京都港区三田3-5-27 住友不動産東京三田サウスタワー
TEL. 03-4555-1000 URL: <http://www.abbott.co.jp>

©2025 Abbott. All rights reserved. All trademarks referenced are trademarks of either the Abbott group of companies or their respective owners.
CORE-25039974 05/25

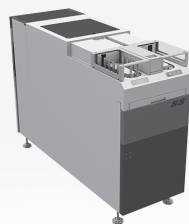


進化しつづける **CLINILOG**™

新たなモジュールを加え、検査室の質向上へ



SS サンプルステーションモジュール Sample Station Module



搬送ラインに検体の新たな
発着場所（ステーション）
をつくれます。

SE 閉栓モジュール Sealer Module

煩わしい閉栓作業を自動化。



RS 冷蔵ストッカーモジュール Refrigerated Stocker Module



最大 5,600 検体を
収納可能。
自動廃棄も行います。



LZテスト‘栄研’試薬

LZ Test ‘Eiken’ PRODUCT LINE UP

- ラテックス凝集比濁法を原理としています
- 各種自動分析装置への適用が可能です
- 精度管理用コントロール血清を用意しております



項目	一般的名称	製品名	測定範囲	届出・認証・承認番号
CRP	C反応性蛋白キット	LZテスト‘栄研’CRP-RV	0.008~36 mg/dL	届出番号：09E1X80001000004
	C反応性蛋白キット	LZテスト‘栄研’CRP-HG	0.01~30 mg/dL	届出番号：09A2X10001000020
SAA	アミロイドA蛋白キット	LZテスト‘栄研’hSAA	2~200 mg/L	届出番号：09E1X80001000003
RF	リウマチ因子キット	LZテスト‘栄研’RF	5.0~500.0 IU/mL	認証番号：219AAAMX00204000
MMP-3	マトリックスメタロプロテイナーゼ-3キット	LZテスト‘栄研’MMP-3	10.0~1,200.0 ng/mL	認証番号：223AAAMX00051000
KL-6	シアル化糖鎖抗原KL-6キット	LZテスト‘栄研’KL-6	50~6,000 U/mL	認証番号：227AAEZK00107000
ASO	抗ストレプトリジンOキット	LZテスト‘栄研’ASO	10~1,000 IU/mL	承認番号：20400AMZ00931000
Ferritin	フェリチンキット	LZテスト‘栄研’FER	5~1,000 ng/mL	届出番号：09A2X10001000021
Cys-C	シスタチンCキット	LZテスト‘栄研’シスタチンC	0.1~8.1 mg/L	認証番号：218AAAMX00187000
β_2 -M	ベータ2-ミクログロブリンキット	LZテスト‘栄研’ β_2 -M	血清及び血漿：0.25~60 mg/L 尿：0.05~12 mg/L	承認番号：20500AMZ00522000
α_1 -M	アルファ1-ミクログロブリンキット	LZテスト‘栄研’ α_1 -M	血清及び血漿：1.2~180 mg/L 尿：0.4~60 mg/L	承認番号：21800AMX10400000
PSA	前立腺特異抗原キット	LZテスト‘栄研’PSA	0.5~50 ng/mL	承認番号：22200AMX00366000
PG	ペプシノーゲンキット	LZテスト‘栄研’ペプシノーゲンI	2~200 ng/mL	承認番号：21400AMZ00659000
	ペプシノーゲンキット	LZテスト‘栄研’ペプシノーゲンII	1~100 ng/mL	承認番号：21400AMZ00660000
HP抗体	ヘリコバクターピロリ抗体キット	LZテスト‘栄研’H.ピロリ抗体II	—	承認番号：30200EZK00044000
U-ALB	アルブミンキット	LZテスト‘栄研’U-ALB	5.0~800.0 mg/L	認証番号：223AAAMX00125000

〈一般品〉

コントロール血清	—	イムノビアリ [®] 1/イムノビアリ [®] 2	液状マルチコントロール
----------	---	---	-------------

本試薬の使用上又は取扱い上の注意については、最新の「電子化された添付文書」および「使用説明書」をご参照ください。

体外診断用医薬品

製造販売元



栄研化学株式会社

〒329-0114 栃木県下都賀郡野木町野木143番地

0036 NK

2023年1月作成

臨床検査の現場を支えて84年——
“Kanai’s Manual”は次の世代へ

臨床検査法提要

改訂第36版

編集 奥村 伸生・本田 孝行・矢富 裕・山内 一由

編集協力 下澤 達雄・松田 和之・大川 龍之介

臨床検査法提要

改訂第36版

Kanai's Manual of
Clinical Laboratory Medicine



◎臨床検査のバイブルから年輩のアップデート
◎臨床実習も卒業教育もこの1冊で
◎検査に携わるすべての臨床検査技師・臨床薬に

金原出版株式会社

現在行われている臨床検査について、その原理や実際の手順を詳細に解説。検体検査から生理機能検査まで臨床検査技師・医師等が現場で必要とする内容を網羅し、基準値の精査、臨床検査に関わる法令や関連学会のガイドライン等、検査試薬や機器については更新を行った。タスクシフト/シェアによる臨床検査技師の追加業務を反映し、遺伝子検査は全体を一新した一方で、過去の検査もHPより閲覧可能。臨床検査のすべてがわかる1冊！

◆ A5判 2008頁 ISBN978-4-307-05055-5 ◆ 定価

冊子版 19,800円(本体18,000円+税10%)

電子版 16,500円(本体15,000円+税10%)



金原出版

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL03-3811-7184(営業部直通) FAX03-3813-0288

<https://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

書籍の詳細はこちらから



2025・9

Canon

私たちは、 「いのち」から始まる。

激動する世界で「いのち」の輝きこそが未来への希望であり、前へ進む力であると
キヤノンメディカルシステムズは信じています。

医療機器メーカーである私たちの使命は、尊い「いのち」を守る医療への貢献。

創業以来、つねに医療関係者の方々と手を携え、数々の技術開発に挑んできました。

その想いは、経営スローガン「Made for Life」として、

世界中の社員一人ひとりの胸に変わることなく息づいています。

医療の現場を全力で支え、健康と「いのち」を守る臨床価値を創出するために。

私たちはこれからも“いま”を拓き続けてまいります。

患者さんのために、あなたのために、
そして、ともに歩むために。

Made For life

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 <https://jp.medical.canon>

Z000059-02



動画で学ぶ採血実技

標準採血法ガイドライン(GP4-A3)に準拠し、臨床検査技師の視点から徹底解説。

穿刺する血管の選択、VVR対応、採血後の処置まで、
技術の習得と現場での実践にお役立ていただけます。

文献定額プラン
会員様なら
無料で視聴可能!



監修

東京科学大学
大学院医学総合研究科
臨床分析・分子生物学分野教授
大川龍之介先生

東京科学大学病院 検査部
臨床検査技師長
市村直也先生



Medical*Online
Video

お問合せ

株式会社メテオ 営業部

info@medicalonline.jp

**第37回日本臨床検査医学会 関東・甲信越支部総会
プログラム・抄録集**

発 行 2025年10月

編 集 東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 臨床分析・分子生物学分野
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45 3号館16階

印 刷 株式会社CLeF
〒710-0253 岡山県倉敷市新倉敷駅前3丁目95
TEL : 086-454-6190 FAX : 086-454-6192

ナノ粒子の分散・凝集・相互作用・固体表面電荷の評価に ゼータ電位・粒子径・分子量測定システム

Zeta-potential & Particle Size Analyzer

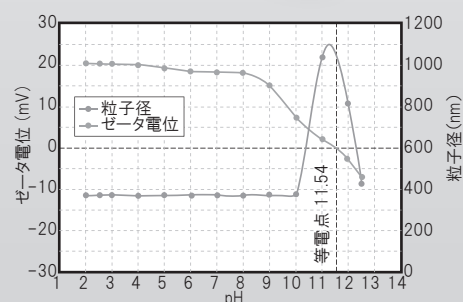
ELS Z NEO

ゼータ電位

粒子径
0.6nm ~
10μm

分子量
340 ~
 2×10^7

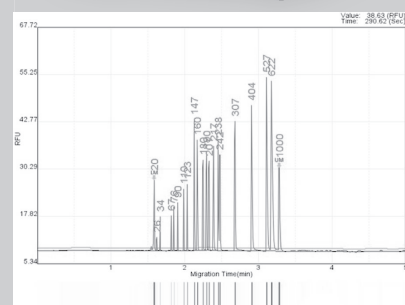
- 高塩濃度下での平板状サンプルの表面ゼータ電位測定が可能
- 微量(3μL ~)での粒子径測定が可能
- 粒子濃度の測定が可能
- マイクロレオロジー測定が可能
- ゲルの網目構造や不均一性の評価が可能



PCR とキャピラリー電気泳動が 一体となった遺伝子解析装置

Bio-Fragment Analyzer
Qsep Ultra

- PCRとCEを1台に統合
- ゲル調整不要で失敗リスクを低減、高い再現性を実現
- 省スペース設計(W395×D300×H370mm 重量14kg)
- 1-8検体を連続解析可能



大塚電子株式会社

<https://www.otsukael.jp/>

■ 本社・営業部 TEL.(072)855-8550 FAX.(072)855-8557
〒573-1132 大阪府枚方市招提田近3丁目26-3

■ 東京支店 TEL.(042)644-4951 FAX.(042)644-4961
〒192-0082 東京都八王子市東町1-6 橋完LKビル2F